



石巻市  
雄勝町

津波が変えたものも  
残したいものも

# 雄勝の今を みんなですべて記録する



船に乗っての  
撮影も  
したんだね



みんなが今  
見ている  
目の前のもの

なつがく、  
見られる日が  
来るといいね



石巻市雄勝(おがつ)町は、ホタテやホヤの養殖(ようしょく)が盛(さか)んな町でした。習字で使う「硯(すずり)」の産地(さんち)としても有名です。でも、2011年3月11日の津波(つなみ)で家々がほとんど流され、学校も壊(こわ)されて、小学生たちの多くは同市河北町の仮設住宅(かせつじゅうたく)と学校で過ごしています。

「雄勝の今を映像(えいそう)で記録



が大好きだったり、という小学生14人が集まり、5つのグループになって町を歩きました。思い思いに動画を撮り、夜には

(きろく)しよう」と、このほど2日間の「ITキャンプ」がありました。ITは情報技術という意味ですが、ここでは動画も撮(と)れるスマートフォンやタブレット型パソコンのことです。開いたのは、雄勝を元気にしようとするさまざまな活動をしている東京の団体「スイート・トリート311」。

津波の前まで雄勝に住んでいた、雄勝

それぞれ映像の好きなところを選(えら)び、パソコンを使って約3分の作品に仕上げました。

2日目は発表会。映画のように仕上がった作品をみんなで見ました。山の上や砂浜から見た海、漁船に乗って見た海、太陽の光を受けてキラキラする波しぶき、ヒトデやカモメ…。「雄勝のいいところは海!」と、発表の中でみんなが話しました。

取り壊しが決まった元の雄勝小、屋根(やね)に車が打ち上げられたままの「雄勝硯伝産業会館(でんとうさんぎょうかいかん)」なども、映像で流れました。津波で硯の工房(こうぼう)を流された職人(しょくにん)が小屋で懸命(けんめい)に作っているところ、ショベルカーやダンプトラックが土を運ぶ復旧工事(ふ

っきゅうこうじ)も。今の雄勝の映像には、津波が変えたものと変わらないもの、変わりゆくものが交じり合っていました。

「撮(と)ってみて初めて気づいた小さな道や、きれいな景色(けしき)がある」と、雄勝小4年の鹿野悠希花(ゆのか)さん(10)は言いました。今は河北町の仮設

住宅に住んでいますが、「いつか雄勝に戻りたいな」。

飯野川二小6年の高橋奈緒さん(12)は以前、雄勝に何度か遊びに来て、美しい海が大好きになりました。「わたしが住む飯野川では震災(しんさい)前と同じ生活をしているのに、雄勝は今も元通りじゃない。きっと復活(ふっかつ)してほしい」と話しました。

「町がこれから復興(ふっこう)していく歩みを未来(みらい)に残したいんです」と、スイート・トリート311の安田健司さん(24)。子どもたちといっしょに、この活動を続けていこうです。